

ボーリング柱状図

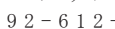
事業・工事名

調査名

雁の巣レクリエーションセンター全天候型多目的グラウンド新築工事地質調査業務委託

ボーリングNo

シートNo

ボーリング名	N o 3			調査位置	福岡市東区大字奈多地内						北緯	
発注機関	福岡市財政局アセットマネジメント推進部施設建設					調査期間	平成 24年 9月 3日 ~ 24年 9月 日				東経	
調査業者名	有限会社大地コンサルタント 電話 (092-612-4455)			監理者 技術者	加藤 義博		現場代理人	加藤 義博	コ鑑 定 者	米原 久晶	ボーリング責任者	安田 隆正
孔口標高	KBM +9.77m	角 	方 	地盤勾配 	使用機種	試錐機	吉田 YBM-05		ハンマー 落下用具	半自動落下式		
総掘進長	38.00m					度	向	エンジン	YANMAR NFD8		ポンプ	YBM GP-5

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記 事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験						原位置試験		試料採取			掘進 月日			
											深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数			打撃回数／貫入量 (cm)	N 値	深 度 (m)	試験名 および結果	深 度 (m)	試料 番号	採取 方法		室内試験 ()		
												0 〓	10 〓	20 〓											
1					砂	黄灰～暗灰	中位の		全体に粒子均一な細砂主体。 GL-1.4m以深は含水多い。 GL-4m付近、腐植物を少量混入。 細粒分の混入はほとんど見られない。	9/3 1.40 ≡	1.15	1	1	1	3 30	3									
2											1.45 2.15	3	3	4	10 30	10									
3											2.45 3.15	6	6	7	19 30	19									
4											3.45 4.15	6	6	9	21 30	21									
5											4.45 5.15	6	9	10	25 30	25									
6											5.45 6.15	10	12	13	35 30	35									
7											6.45 7.15	5	6	7	18 30	18									
8											7.45 8.15	9	8	11	28 30	28									
9											8.45 9.15	9	10	10	29 30	29									
10											9.45 10.15	6	8	10	24 30	24									
11											10.45 11.15	8	8	10	26 30	26									
12	-2.03	11.80	11.80		粘土	暗灰	軟らかい 中位の		比較的均質な粘性土。 貝殻片を混入する。 粘性は強い。 GL-16m～18m付近は半固結状を呈する。	9/3 1.40 ≡	11.45 12.15	1	1	2	4 30	4									
13											12.45 13.15	1	2	1	4 30	4									
14											13.45 14.15	1	1	1	3 30	3									
15											14.45 15.15	1	1	1	3 30	3									
16											15.45 16.15	1	2	1	4 30	4									
17											16.45 17.15	2	1	2	5 30	5									
18											17.45 18.15	1	2	2	5 30	5									
19											18.45 19.15	1	2	2	5 30	5									
20											19.45 20.15	1	1	1	3 40	2									
21											20.55 21.15	1	1	1	3 30	3									
22	-12.03	10.00	21.80								砂混り粘土	暗灰	中位の		細砂を混入し、貝殻片多量混入する。	9/3 1.40 ≡	21.45 22.15	1	2	2	5 30	5			
23	-12.93	0.90	22.70		礫混じり砂	暗灰～黄灰～褐	密な 中位の		中砂～粗砂主体。 φ5～20mm程度の礫混入。 色調の変化が激しい。 GL-32m～34m間は最大φ40mm程度の石英礫を混入する。 含水量中位。	22.45 23.15	11	17	17	45 30	45										
24										23.45 24.15	7	10	17	34 30	34										
25										24.45 25.15	9	12	12	33 30	33										
26										25.45 26.15	10	11	11	32 30	32										
27										26.45 27.15	6	6	6	18 30	18										
28										27.45 28.15	6	8	6	20 30	20										
29										28.45 29.15	6	7	7	20 30	20										
30										29.45 30.15	5	7	5	17 30	17										
31										30.45 31.15	5	9	6	20 30	20										
32										31.45 32.15	6	10	18	34 30	34										
33										32.45 33.15	8	9	10	27 30	27										
34	-24.03	11.10	33.80		砂	褐灰	密な 非常に密な		二次マサ土状を呈し、細砂～中砂主体。 全体に若干シルト分を混入する。 長石は粘土化している。 φ2～5mm程度の細礫が若干混入。	33.45 34.15	8	11	20	39 30	39										
35										34.45 35.15	12	16	22	50 30	50										
36										35.45 36.15	8	11	12	31 30	31										
37	-27.83	3.80	37.60							36.45 37.15	9	11	13	33 30	33										
38	-28.23	0.40	38.00							37.45 38.15	8	13	13	34 30	34										
39										38.45															

- ・本資料は、工事等により現況と整合しない場合があり、現在の位置関係や地質状況などを特定するものではありません。
- ・本資料は、参考データとして利用し、現在の地質状況は、再度ボーリングを行う等して確認をお願いします。